講談先生

坂口安吾

青空文庫

僕は天性模倣癖旺盛で、忽ち人の感化を受けてしまう。だから、人の影響はのべつ受けてばかりいて、数えあげればキリがない。けれども、この人には負けたくない、というような敵意を持つ場合もあるもので、この人の作品を読むと惹きこまれるから、もう読むまいと決心するようなこともあった。これが本当の影響を与えた人かも知れないが、こういう本当の書斎の中へは他人を入れたくないから、僕は語らない。

僕は今書いている歴史小説に、かなり多く「講談」から学んだ技法をとりいれている。講談の技法を小説にとりいれたら、と考えたのは十年ぐらい昔からのことで、それは、フランス・写実派の技法が、僕の観念とどこかしら食い違うところから、なんとなく心を惹かれ始めたのである。

写実、つまり、文字で描くということは、トリビヤリズムに堕し易く、思うことの中心を逸することが多い。小説は元来「語る」べきもので、第一に、そう考えた。語るように書く、というのは当然の話だけれども、僕の言うのは別の意味で、「講談」のように、と言うことだ。講談は語る人の性格があんまり出ない。フランス風の写実は、語り手の性格が出すぎて、事物の実体をくらまし易いと思った。

近頃の例で言えば何々参謀談という作戦談のようなものがそれで、あそこにも語る人の性格は失われ、事実そのものが物語るような力になっている。

僕がこのことに具体的に気がついたのはスタンダールの小説を読んだときで、スタンダールが、いわば、外国的講談口調の語り手なのである。スタンダールは描写や説明ということを、やらない。

日本の講談には語り手の性格がないように、語られている人物にも性格がない。善玉悪玉の型があるばかりである。これは演者の教養や観点が固定しているからで、こういう最悪の欠点は学ぶ必要がないけれども、然し、之を逆に言うと、スタンダールも型だけしか書いていないのだ。

だが、スタンダールは常に創作し、進歩する。新らしい型が生れている。之だけが講談と違う。尤も、これ一つ違うだけで、月とスッポンの違いになる。

講談それ自体は馬鹿らしいものだけれども、我々は、どこから何を学びとっても、値打には変りがない。

講談は自分が歴史を見てきたように語っている。「まことに困った奴でございます」とか「こう言いながら蔭で赤い舌をペロリと出しました」などと実に心易いもので、私がちゃんと見てきたのだから、文句は言わずに、信用しなさい、という立前なのである。

小説の技法に大切なのは、事実性、説得力というもので、之には色々の技術がある。或いは作者の感傷に托して事実性を維持しようとしたり、こくめいな描写によって実感を盛り上げようとしたり、様々だ。各、作者その人の身についた技法があるから、良し悪しは一概に言われぬことで、自分の方法を身につけることが第一であろう。

僕が講談の方法を面白いと思ったのは、之又僕流の考え方で、僕はそれで良いのだと思っている。

講談の語り方、私が見てきたことだから信用しなさい、という語

り方によると、第一、目が物が本質から離れず、小さなことに意を用いる必要がないという、大変手数の省略があり、この省略は、手数を省くばかりでなく、テーマをはっきりさせる。

我々に必要なのは語り方ではなくて、何事を語ったか、ということであるが、語り方がなければ、語られる物はなく、語り方が変れば、語られる物も変る。語っているようにしか考えられず、又、事物は在り得ない。小説の実在性というものには、それだけの絶対性があるのである。

小説の技法などというものは、言い現わし難いもので、自ら会得する以外に仕方がない。小説家は、常に小説の中で全てを語りつくすべきもので、僕が今、講談に就て語ったことも、意をつくしてはいないし、又、つくそうとも思っていない。ただ、講談の口調をややとりいれて小説を書いているのは本当だが、講談というものを特別意識しているわけでもないのである。ただ、講談という言葉を一つとりあげたから、こんな風な文章になっただけの話である。この小説は、もう三ヵ月ぐらいで出来上ります。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾選集　第五巻小説5」講談社
　　1982（昭和57）年6月12日第1刷発行
底本の親本：「現代文学　第六巻第三号」
　　1943（昭和18）年2月28日
初出：「現代文学　第六巻第三号」
　　1943（昭和18）年2月28日
入力：高田農業高校生産技術科流通経済コース
校正：小林繁雄
2006年7月4日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

講談先生

坂口安吾

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/